



## ★アウトリーチ型活動報告 ⑩★ 「ケアセンターつどい島根」での、東京足立相撲甚句会 中央さん

みなさん、『アウトリーチ型活動』をご存知ですか？ 登録団体の皆さまと当センターが協働して、高齢者施設等の近隣施設に訪問して、サークルさんの日頃の学習や練習の成果を地域の皆さまに活かしていただくボランティア活動です。

1月6日、東京足立相撲甚句会中央さん（以降、甚句会さん）と一緒に、梅島陸橋交差点角にある、「ケアセンターつどい島根」さんを訪問させていただきました。

甚句会さんは相撲にまつわる伝統唄の練習や普及活動をなさっていて、足立区内外でご活躍されています。当日、施設では新年会が開かれていて、甚句会さんの登場で会場は一層華やかなムードになりました。拍子木の音とともに一人ずつ舞台に姿を見せた甚句会のみなさま。「甚句会」ののぼりの横に、お揃いのほっぴを着た男女7名が勢揃いして、華やかな唄を次々に披露してくださいました。

お腹の底から声が出ている唄は生で聴くととても迫力があり、皆さんのパワーが伝わってきて、聴いていると元気がもらえます。また、相撲甚句の歌詞にはユーモアがあってとても楽しく聴く事ができます。後家になるのが悲しくて鶴の求婚を拒む亀の唄や、大男が比叡山を枕に寝て琵琶湖の水で喉を潤す豪快な夢の唄など、甚句会講師の林太一さんの分かりやすい説明もあって、じっくり味わう事ができます。さて相撲甚句には「あ〜どすこい！どすこい！」などといった合いの手が欠かせません。そこで、林さんの指導のもと利用者のみなさまにも練習していただきました。みなさん、大きな手拍子と掛け声で参加してくださり、甚句会さんの唄にもより一層熱がこもります。

★利用者さんも大きな手拍子で合いの手！

★女声も入り歌声に広がりがあります



★お腹の底から声が出ています！

★講師の林さんの分かりやすく楽しい説明

★甚句会さんの衣装は後姿もキマっています！



楽しいひと時はあっという間に過ぎてゆき、アンコールの『足立名所甚句』でお開きとなりました。林さん作詞の足立の名所をふんだんに織り込んだこの甚句は、歌詞のプリントが配られ、みなさん足立区の唄にじっくり聴き入っていらっしやいました。

最後に甚句会さんと利用者のみなさま全員での記念撮影がありました。利用者のみなさまのこやかなお顔がとても印象的でした。

ケアセンターつどい島根の利用者のみなさま、職員のみなさま、そして東京足立相撲甚句会中央のみなさま、本当にありがとうございました。

## ★がんばろう東北！チャリティコンサート★ ～障がい者とともに～

1月15日、足立区役所庁舎ホールにて障がい者団体によるチャリティコンサートが開催され、300人を超える観客が集まりました。東日本大震災の直後から抱いていた「なにかできることをやりたい」という、団体のみなさまの思いがかたちとなって実現しました。

コンサートは『音楽でチャリティ 障がい者団体によるパフォーマンス』と『普段着でオーケストラ 上智大学生と卒業生による「東京プラスオルケスター」』の2部構成。ボランティア活動に積極的な上智大学は日頃から障がい者団体とのお付き合いがあり、今回の出演が決まったそうです。観客1人につき1000円の会費は、全額被災地へ寄付されます。

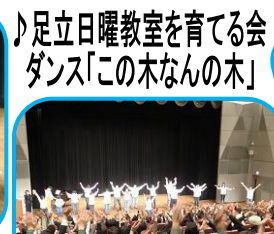
参加団体の1つ、ろう重複障害児・者生活塾「ホーピング」事務局の梨本賢治さんにお話を伺いました。梨本さんは今回のコンサートのMCも務めています。ホーピングさんは聴覚障がいに加え、知的障がいなど別の障がいも合わせて持っている子どもや大人のための団体で、月2回学習会などの活動をされています。「本当の笑顔とはこういうものなのかなど、子ども達との触れ合いで教えてもらうことがたくさんある」と梨本さんは嬉しそうに語ってくださいました。「このコンサートでは義援金の額ではなく、障がいを持った人たちでも社会貢献や援助ができるということを示したい」そうです。さあ、この日のために練習を重ねてきた皆さんの成果がいよいよ発表されます。



♪キラリン 和太鼓演奏 衣装もキマっています！



♪ホーピング 手話コーラス 「一人の手」



♪足立日曜教室を育てる会 ダンス「この木なんの木」



♪東京プラスオルケスター

★アイ・サポート ブラインド体験

バイオリンとピアノによる一青窈の『ハナミズキ』で幕を開けたコンサート。梨本賢治さん最初に登場した「子どもを地域でサポートする会★キラリン」の皆さまは、和太鼓を披露。次々にフォーメーションを変えながらの演奏はとても格好良かったです。「NPO法人足立さくら会」と応援団の「歌声サークルひまわり」のコーラスは観客が手話で参加する場面も。被災者へ贈るZARDの『負けないで』の力強い歌声に会場からは手拍子がおこりました。「ホーピング」の手話コーラスは、先生の指揮をよく見てみんなで手を繋いだりしながら動きを合わせていました。『一人の手』の“みんなでやればできる”という歌詞のメッセージがとてもよく伝わってきました。「あだち日曜教室を育てる会」はダンスとハンドベルを披露。『この木なんの木』は観客もダンスを練習して一緒に踊りました。ステージの皆さんは体をいっばいに使って素晴らしいお手本を見せてくれました。お近くにお住まいで「ときめき」を見て観に来られたという男性は「一生懸命にやっている姿がいいですね」と目を細めていました。

「NPO法人アイ・サポート」のブラインド体験（特殊なメガネで視野を塞いで歩く体験）もあり、盛りだくさんの第1部が終わり、第2部はプラスオルケスターの登場。「普段着でオーケストラ」の言葉通り、ディズニーやくるみ割り人形などみんなが知っている曲を楽しく聴かせてくれました。そして会場全員で『上を向いてあるこう』と『ふるさと』を歌い、コンサートは幕を下ろしました。

「世の中へあなたができることを考えてほしい」と梨本さんは言います。今回のコンサートで皆さんが見せてくれた「自分たちができることをやる」という姿勢は、「自分は何もできない」と思いがちな私たちに、考えるきっかけや勇気をくれました。素敵な時間をありがとうございました！